



2025年8月8日

各 位

会社名 株式会社 ユビテック  
代表者名 代表取締役社長 大内 雅 雄  
(コード6662 東証スタンダード)  
問合せ先 役職・氏名  
管理部門管掌執行役員 江面 祥行  
電 話 03-5447-6731

### 「ユビテック 新3か年計画」策定に関するお知らせ

当社は、第50期（2026年6月期）から第52期（2028年6月期）を対象とする「ユビテック 新3か年計画」を策定いたしましたので、ここにお知らせいたします。内容につきましては、添付資料をご参照ください。

以上

# ユビテック 新3か年計画

2025年8月8日  
株式会社ユビテック

# INDEX

●前中期経営計画「ユビテック4.0」振り返り	3
1. 振り返りと対処すべき課題	4
2. 業績ハイライト	5
●新3カ年計画	6
1. 長期ビジョン	7
2. 基本方針	8
3. 経営指標	9
4. D-Drive 基本方針／運営指標	11
5. D-Drive サービス方向性	12
6. Work Mate 基本方針／運営指標	13
7. Work Mate サービス方向性	14
8. 品質管理とセキュリティ対策	15
9. セキュリティ対策方針	16

## 前中期経営計画「ユビテック4.0」振り返り



# 1. 振り返りと対処すべき課題

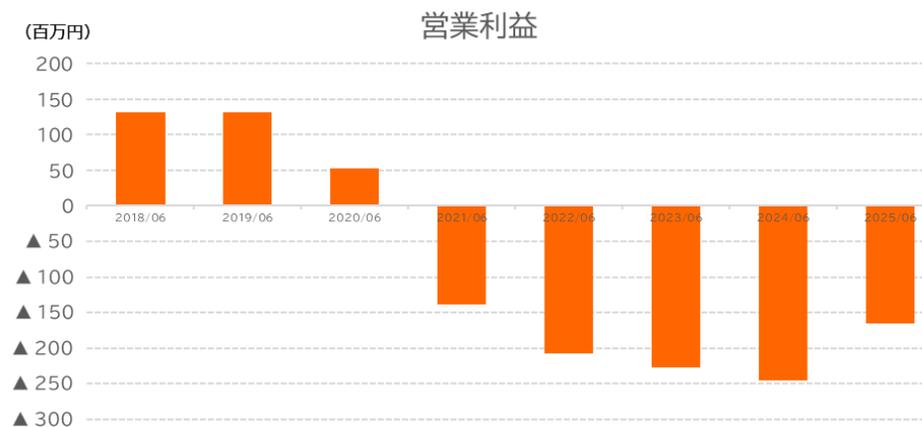
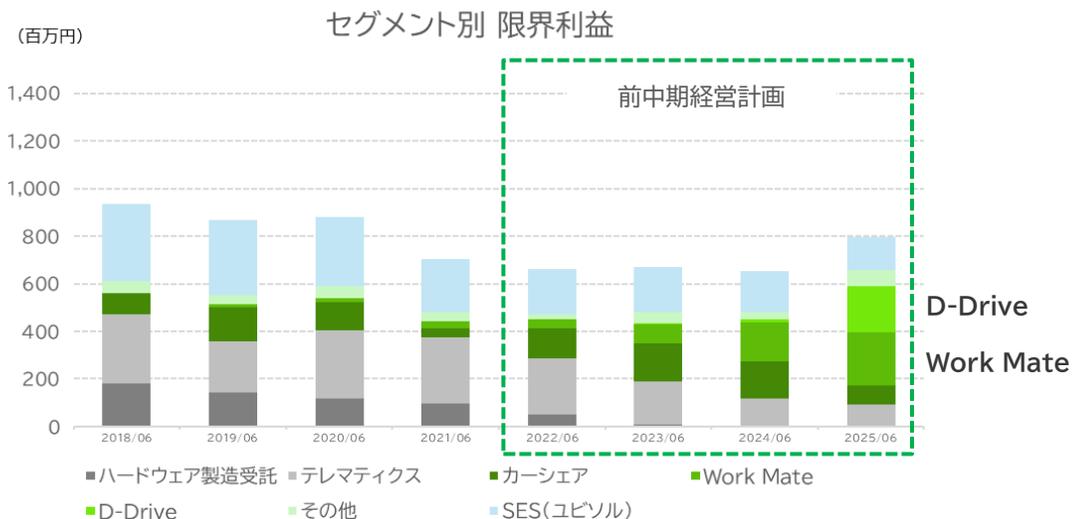
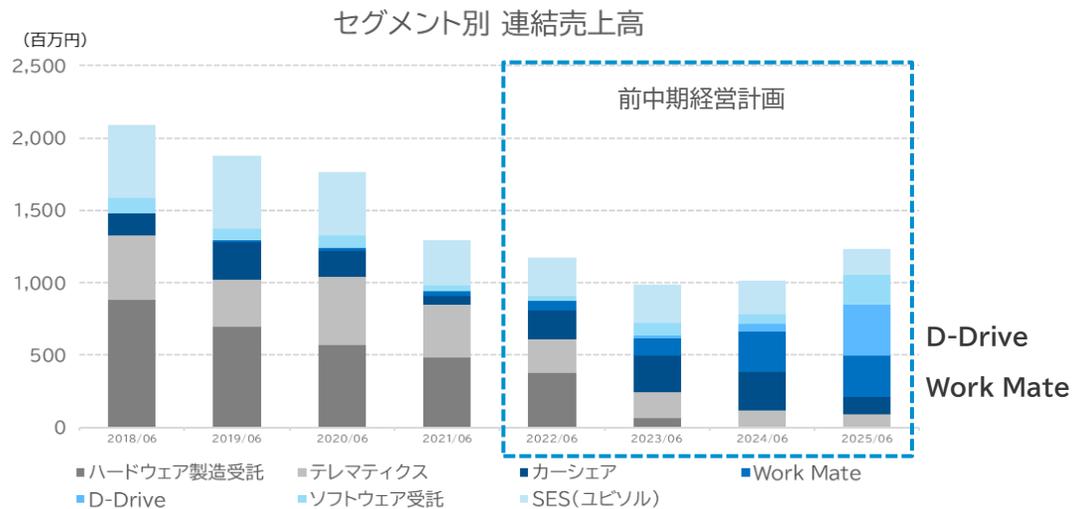
## 前中期経営計画 計画達成状況

- ✓ 2025年6月期実績 売上 1,235百万円 営業利益 ▲166百万円
- ✓ 企業理念、提供価値（パーパス）の再定義
- ✓ 従来ハードウェア製品から、自社SaaSサービスへの移行
- ✓ 「D-Drive」「Work Mate」「カーシェア」の3サービスへリソース集約
- ✓ データサイエンティスト育成や社外取締役との連携等、エクスパティーズ強化
- ✓ 内部牽制機能の効く品質保証体制の再構築
- ✓ 重大インシデント防止のためのセキュリティ強化とセーフティ対策を両輪で推進

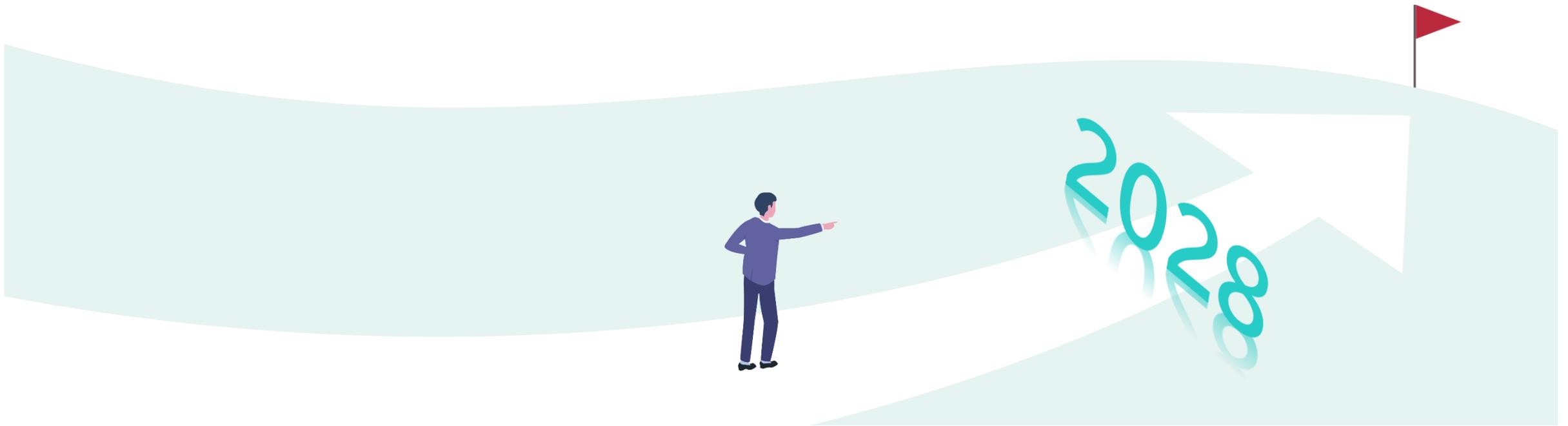
## 今後の課題

- ✓ 企業ニーズと法対応の実態に即した計画策定
- ✓ 営業パートナーシップ強化による、D-Driveの早期拡販
- ✓ Work Mateの運営安定化
- ✓ 蓄積データの活用による事業ポートフォリオの拡大
- ✓ サービス拡大に対応した品質管理、サポート体制、セキュリティ対策の強化

## 2. 業績ハイライト



## 新3か年計画



< 企業理念 >  
人と社会に安全と快適を

< パーパス >  
お客さまの健康と安全を守る  
社会変革と多様性に応じた  
最適な答えを導き出す

2035年6月期  
ありたい姿

「リスクをとらえ、備えは先に」  
未然予防×スマートオペレーションで安全の共創パートナーへ

超高齢化と労働力不足が深刻化する社会において、IoTとAI・データ活用技術を活かしたサービスの提供によって、特に死亡リスクの高い労働中の事故を未然予防し、企業と労働者の「安全・健康」「法令遵守・レギュレーション強化」を実現すること、ひいては継続的なモニタリングとフィードバックループによるスマートオペレーションの提供で「業務効率化」を実現し、社会課題解決と企業の持続的成長を支援してまいります



2035年6月期  
ありたい社会価値の姿

交通死亡事故ゼロの社会へ  
Safe Drive in every corner



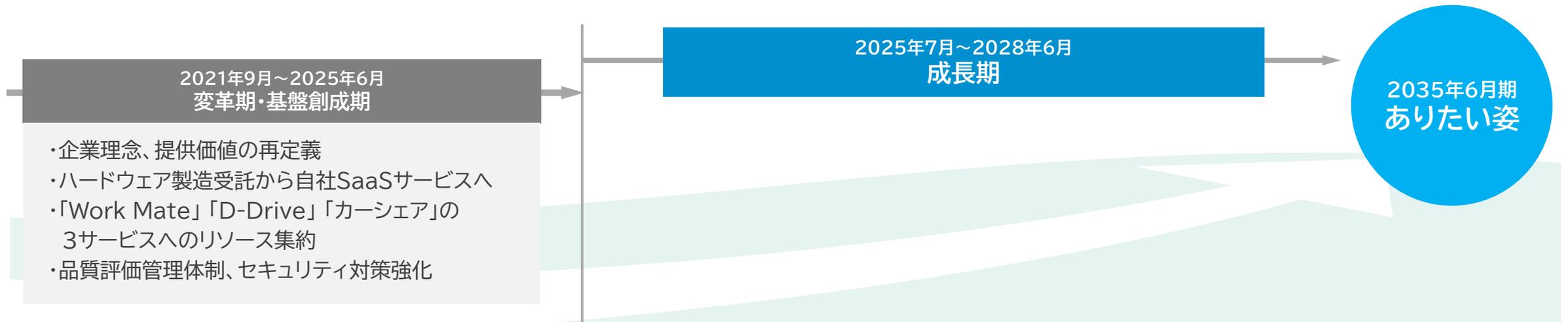
2035年6月期  
ありたい社会価値の姿

健康起因死亡事故ゼロの社会へ  
Safe Work in every corner

## 2. 基本方針

長期ビジョン実現のマイルストーンとして、新3か年計画を自社SaaSサービス成長期と位置づけ、以下を基本方針とする

- 1 インターロックシステムの早期拡販による、D-Driveの基幹事業への成長
- 2 社会ニーズに即した、Work Mateの安定成長
- 3 自社サービス蓄積データの活用による、第3軸の創出
- 4 サービス信頼性・永続性・安全性の確保を目的とした品質管理向上とセキュリティ対策高度化
- 5 D&I推進と社員の発想機会創出、エンゲージメント向上



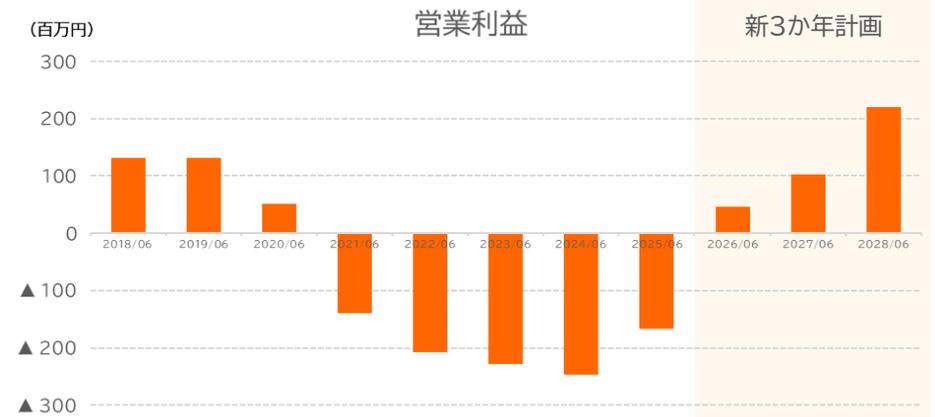
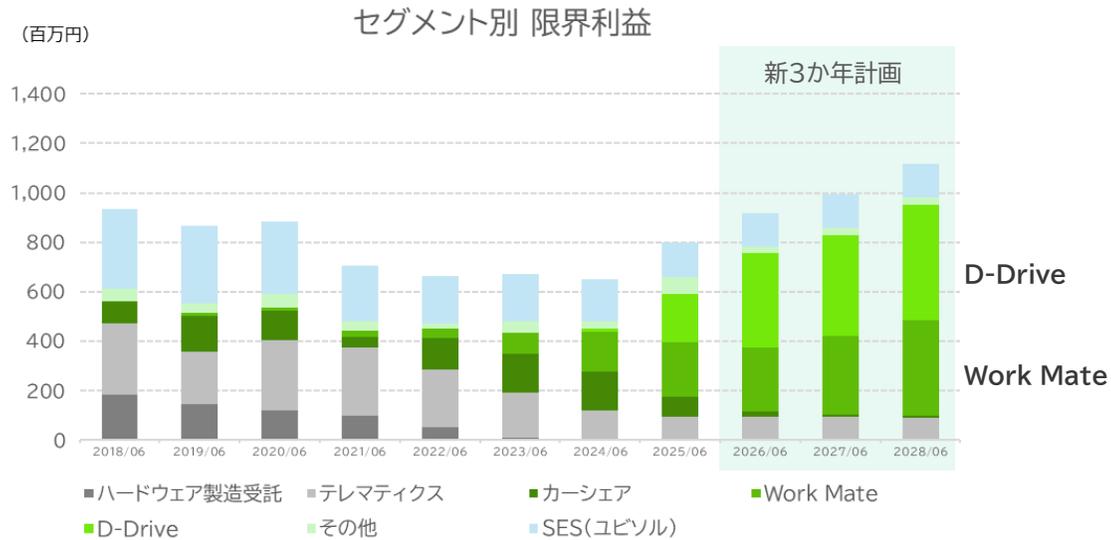
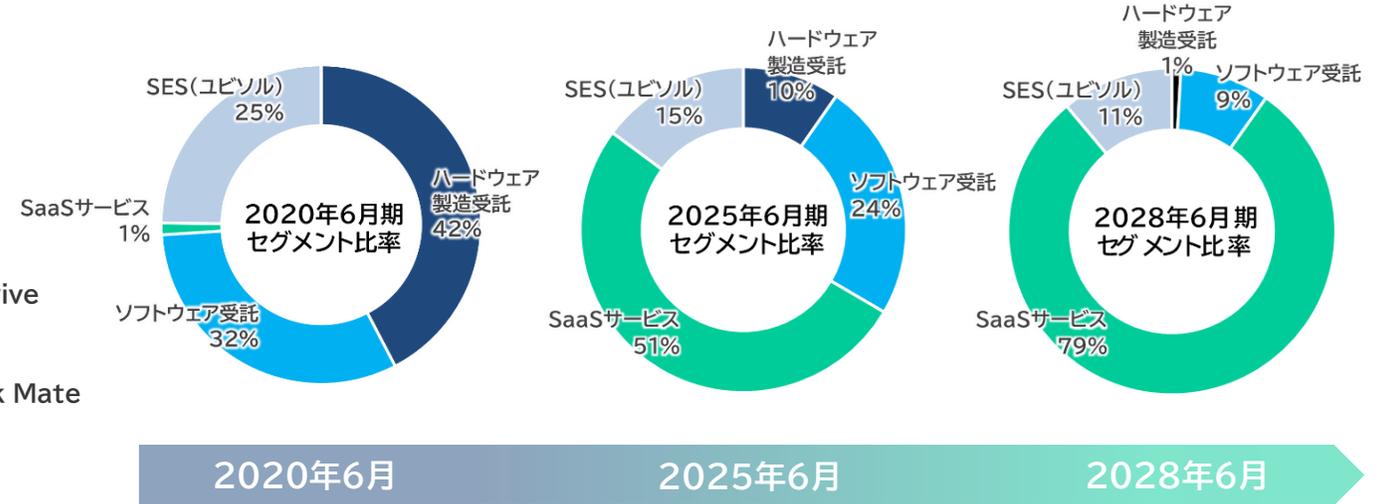
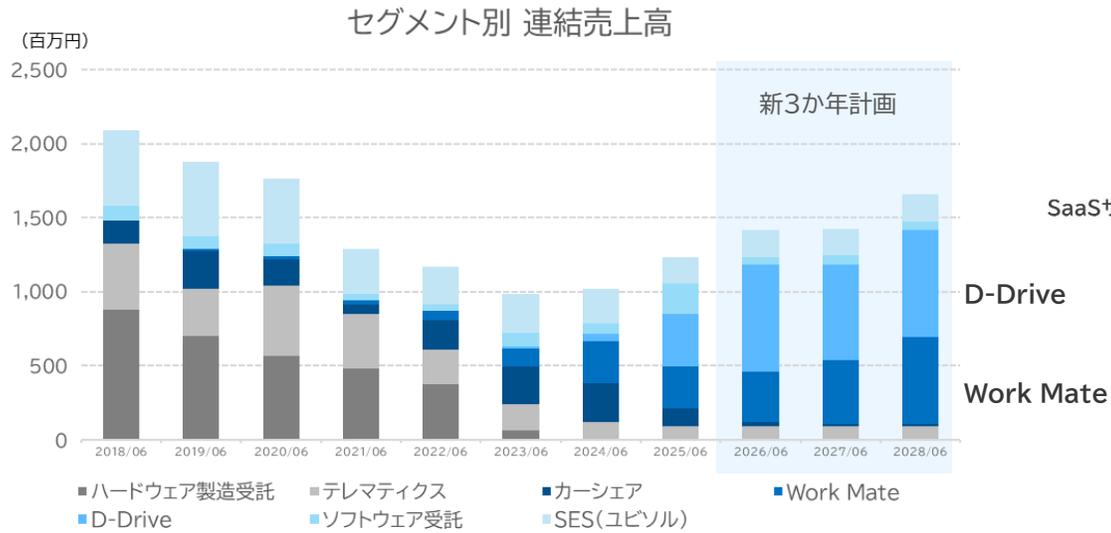
### 3. 経営指標

- 1 2026年6月期での営業利益黒字化、2027年6月期での営業キャッシュフロープラス
- 2 2028年6月期での売上高1,657百万円、営業利益220百万円の達成
- 3 早期復配実現と、従来配当水準への回復

	売上高	ARR※	ARR成長率	ARR 対売上比	限界利益	営業利益
2028年6月期	1,657 百万円	661 百万円	+19.5%	39.9%	1,118 百万円	220 百万円
2027年6月期	1,426 百万円	554 百万円	+35.1%	38.8%	995 百万円	103 百万円
2026年6月期	1,418 百万円	410 百万円	+81.5%	28.9%	918 百万円	46 百万円
2025年6月期	1,235 百万円	225 百万円	+146.9%	18.3%	788 百万円	▲166 百万円

※ARR (Annual Recurring Revenue) …SaaSサービスの売上のうち、初期費用を除いた年間サービス料(年間経常収益)

# 3. 経営指標



## 4. D-Drive 基本方針／運営指標

- 1 アルコール・インターロックの早期拡販に注力
- 2 オリックス自動車との営業連携強化、クラウド事業者・検知器メーカーとのシステム連携による販売チャネル拡充
- 3 3つの価値提供領域「安全」「法令遵守・レギュレーション強化」「業務効率化」での機能拡充
- 4 サービス信頼性・永続性・安全性の確保を目的としたシステムブラッシュアップとセキュリティ高度化

	売上高	ARR	ARR成長率	ARR対売上比
2028年6月期	721 百万円	365 百万円	+24.1%	50.6%
2027年6月期	650 百万円	294 百万円	+48.2%	45.3%
2026年6月期	718 百万円	198 百万円	+196.2%	27.6%
2025年6月期	355 百万円	67 百万円	—%	18.9%

# 5. D-Drive サービス方向性

## インターロック機能と連携した 安全運転支援サービス

### 【提供中】 共有車への対応

- ◆ 車両予約スケジューラーの活用  
連携ツールを随時追加予定
- ◆ 運転キーの無人管理型車載機
- ◆ 運行前のキズチェック・管理機能

### 【2025年9月 提供予定】 運転日報への対応

- ◆ 社有車(車載機搭載)  
の日報自動生成
- ◆ 代車、レンタカー、  
カーシェアリング対応
- ◆ 走行履歴の管理機能



### 【提供中】 飲酒運転への対応

アルコールチェック・クラウドサービスとの連携  
パートナー先を随時追加中

## インターロック機能

デジタルキーで  
車載機によるエンジンロック/ドアロック解除



### 【2026年7月 提供予定】 ながらスマホへの対応【開発予定】

運転中のスマホ利用を自動制御

### 【2025年9月以降 順次提供予定】 運行管理サポート①【開発予定】

- ◆ 運転免許証の読取・管理機能  
マイナ免許証への対応予定
- ◆ 各種社内規則の申請・承認及び管理機能
- ◆ 事故・違反報告の申請・承認及び管理機能
- ◆ 社内免停者への対応
- ◆ 各種データの集計・チェック機能

### 【2027年1月以降 順次提供予定】 運行管理サポート②【開発予定】

- ◆ 運転者の体調管理
- ◆ 異常気象・天災対応
- ◆ 天候情報の活用



**Work Mate**  
働く人の安全をサポート

- ① 社会ニーズに即した安定成長
- ② 熱中症対策義務化（改正労働安全衛生規則）の法対応に即した機能ブラッシュアップ
- ③ サービス信頼性・永続性・安全性の確保を目的としたシステムブラッシュアップとセキュリティ高度化

	売上高	ARR	ARR成長率	ARR対売上比
2028年6月期	592 百万円	296 百万円	+14.2%	50.0%
2027年6月期	429 百万円	259 百万円	+22.9%	60.5%
2026年6月期	346 百万円	211 百万円	+33.0%	61.0%
2025年6月期	281 百万円	159 百万円	+73.6%	56.4%

※研究開発費を除く

未然予防で救えるいのちは救う  
現場作業員に加えてドライバーを対象に

**【提供中】  
熱中症予兆検知**

- ◆ 早期発見を目指した独自の指標
- ◆ 回復状態を検知し、作業復帰をお知らせ
- ◆ より危険な状態を示す  
「熱負荷 警戒アラート」をリリース
- ◆ 法対応に即した機能ブラッシュアップ

**【提供中】  
注意力低下検知**

- ◆ 注意力低下検知アルゴリズムのブラッシュアップ
- ◆ 高精度デバイス対応による検知精度向上
- ◆ 製造業向けに覚醒低下由来の3大事故を未然予防
- ◆ ドライバー向けに覚醒低下由来の漫然運転事故を予防

**予兆検知機能**

バイタル情報を活用した  
予兆検知機能により  
労災事故を未然予防

**【研究開発領域】  
眠気検知**

- ◆ 眠気検知アルゴリズムの開発
- ◆ 高精度デバイス対応による検知精度向上

**【研究開発領域】  
副交感神経機能(回復力)指標化  
一次スクリーニング機能**

- ◆ 副交感神経機能(回復力)を指標化
- ◆ 未病段階での体調異変をアラート
- ◆ 同アラートで一次スクリーニングを行い、適切なタイミングで医療機関へ受診できる仕組みを提供

## 8. 品質管理とセキュリティ対策

### ✓ サービス信頼性・永続性・安全性の確保を目的とした品質管理向上とセキュリティ対策高度化

#### 信頼性

- ✓ お客様が安心してユビテックのサービスを利用できる環境整備のための取り組み
  - 1 クラウド提供基準の策定。サービス稼働状況をモニタリングし、適宜アラート対応を行う
  - 2 障害発生時の迅速な復旧と、顧客への迅速な通知
  - 3 製品・サービスおよび、作業の品質のモニタリングと改善

#### 永続性

- ✓ お客様が継続してユビテックのサービスを利用していただけるようにするための取り組み
  - 1 運用の透明性の確保。障害情報通知、メンテナンス事前通知、サービスステータスの公開
  - 2 顧客との対話によるオンボーディング、および利用状況分析による改善提案の実施
  - 3 問い合わせ対応の迅速化と、顧客が自ら解決可能なサポートツールの提供

#### 安全性

- ✓ お客様の情報をサービスで安全に蓄積・活用するための取り組み
  - 1 システムを含めた、サービス提供全体のセキュリティーを向上
  - 2 システムや、サービス品質の第三者による審査の実施と、安全性向上に向けた改善の実施
  - 3 サイバーセキュリティ監視と、システム/サービス・ログの活用と分析（不正抑止、予兆検知、事後調査）

# 9. セキュリティ対策方針

- ✓ システム全体を網羅する 多層防御\*1 とゼロトラスト\*2 の組み合わせによる強固なセキュリティ態勢を構築
- ✓ 認証取得済みのISMS\*3の活動を通し、優先度の高い事項からリスク対応を進める

分類	脅威	対策例
API	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なりすましによる不正侵入 → 情報漏洩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準規格(OpenAPI仕様)に準拠した連携認可機構</li> </ul>
通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データ盗聴・改ざん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通信暗号化</li> <li>・ 端末/ユーザ認証</li> </ul>
システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DDoS、不正侵入</li> <li>・ 脆弱性をついた侵入</li> <li>・ マルウェア感染</li> <li>・ データ搾取</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システムへの侵入検知・防御</li> <li>・ 脆弱性診断・修正適用、WAF</li> <li>・ マルウェア対策</li> <li>・ データベース保護対策</li> </ul>
デバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外付けネットワークI/Fからの侵入</li> <li>・ 機器の物理破壊による侵入</li> <li>・ リモートアップデートを悪用した不正ファームウェア書換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部インターフェース無効化</li> <li>・ 物理破壊対策</li> <li>・ 不正更新対策</li> </ul>
業務・人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部不正</li> <li>・ 標的型攻撃</li> <li>・ 不注意による情報漏洩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISMS *3 / ISMSクラウドセキュリティ*4 認証 ※2020年1月認証取得済</li> </ul>

\*1) 複数のセキュリティ層を構築して段階的に防御、リスクを軽減する考え方

\*2) すべてのアクセスを信頼しない前提に立つセキュリティモデル

\*3) 情報セキュリティマネジメントシステム(ISO/IEC 27001)/クラウドサービスに係る情報セキュリティマネジメントシステム(ISO/IEC 27017) いずれも、国際規格に基づく認証

本資料に掲載されている、株式会社ユビテック（以下「当社」といいます）及びその連結子会社（当社とあわせて「当社ら」といいます）の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみにより全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

実際の当社らの業績は、外部環境および内部環境の変化による様々な潜在的なリスク及び不確実性※により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点のものであり、また、監査を経していない財務情報も含まれており、当社は、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は株式会社ユビテックに属します。

※ 潜在的なリスクや不確実性については、有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

